

最高級の神仏を信じる

黎明

発行所

京都市左京区
吉田神楽岡町3

世界教世教黎明教会

郵便番号606-8311
電話075(771)202番

各面の内容

- 2〜3面 初代会長先生 御教えの研鑽
3面 秋季大祭
4〜5面 お蔭ご奉告 山本恵理様
5面 功労者合同慰霊祭
6面 資料研修館開館20周年記念の特別講演
7〜8面 お蔭ご奉告 家田善太様
8面 お蔭ご奉告 新井帆乃様

支那の碩学朱子の言に「疑は信の初めなり」という事があるが、之は全く至言である。私は「信仰は出来るだけ疑え」と常に言うのである。世間種々の信仰があるが、大抵はインチキ性の多分にあるものか、そうでない迄も下の位の神仏や狐、狸、天狗、龍神等を的としたものが多く、正しい神を的とする信仰は洵に少ないのである。従而厳密に検討を加える時、大抵の宗教は何等かの欠点を包含しているものであるか

明主様の御教え

正しき信仰

ら、入信の場合何よりも先ず大いに疑ってみる事である。決して先入観念に捉われてはならない。何程疑って疑り抜いても欠点を見出だせない信仰であれば、それこそ信ずる外はないであろう。然るに世の中には最初から「信ずれば御利益がある」という宗教があるが、之は大いに誤っている。何となれば些かの御利益も認めない中から信ずるといふ事は、己を偽わらなければならぬ。故に最初は大に疑ってみる。研究してみるという程度で注意深く観察し、出来るだけ疑うのである。そうして教義も信仰

明主様御真筆 洗霊

理論も合理的で非の打所がないばかりか、神仏の御加護は歴然として日々奇蹟がある程のものであれば先ず立派な宗教として入信すべき価値がある。又斯ういふ宗教もある。それは信者が他の宗教に触れる事を極端に嫌うのであるが、之等も誤っている。何となればそれはその宗教に欠点があるか、又は力が薄弱である事を物語っている。最高の宗教であればそれ以上のものは他に無い筈であるから、他の宗教に触れる事を恐れる処か反って喜ぶべきで、其結果自己の信ずる宗教の優越性を認識し、却って信仰は強まる事になるからである。

然し斯ういふ事も注意しなくてはならない。それは相当の御利益や奇蹟の顕われる場合である。正しい神仏でも人間と同様に中下あり、力の差別がある。二流以下の神仏でも相当の力を発揮し給うから御利益や奇蹟も或程度顕われるので、大抵の人は有難い神仏と思ひ込んでしまふ。処が長い間には二流以下の神仏では往々邪神に負ける事があるから、種々の禍いとなつて表われ苦境に陥る場合があるが、一度信じた以上何等かの理屈を付け、神仏の力の不足など発見出来ないばかりか、反って神仏の御試し又は罪穢の払拭と解するのである。

信仰者にして病氣災難等の禍いがあり一時は苦しむが、それが済んだ後はその禍い以前よりも良い状態になるのが、上位の神仏の証憑である。即ち病氣災難が済んだ後は、罪穢がそれだけ軽減する結果霊的に向上したからである。それに引換え禍い非常に深刻であつたり長期間であつたり、絶望状態に陥つたりするものは、その神仏の力が不足の為邪神に敗北したからである。

世間よく凡ゆる犠牲を払い、熱烈なる信仰を捧げて祈願するに問わず思ふような御利益のないのは、その人の願事が神仏の

力に余るからで、神仏の方で御利益を与えたくも与えられ得ないという訳である。此様な場合、これ程一生懸命に御願いしても御願届かないのは、自分は最早神仏に見放されたのではないかと悲観し、此世に神も仏もあるものかと思ひ信仰を捨てたり自暴自棄に陥つたりして益々悲運に陥るといふ例はよく見る処である。斯ういふ信仰に限って断食をしたり、お百度詣りをしたり茶断ち塩断ちなどをするが、之は甚だ間違つてゐる。個人的にどんな難行苦行を行つたとしても、それが社会人類に些かの裨益する所がなければ徒勞に過ぎない訳で、斯ういふ方法を喜ぶ神仏があるとすれば勿論二流以下の神仏か又は狐狸天狗の類である。故に正しい神仏であれば、人間が社会人類の福祉を増進すべき事に努力し、その効果を奏げ得た場合、その功績に対する褒賞として御利益を下し給うのである。序でに注意するが昔からよく「鰻の頭も信心から」と謂う事があるが、之は大変な間違いであつて、すべて信仰の的は最高級の神仏でなければならぬ。何となれば高級の神仏ほど正しき目的の祈願でなくては御利益を与えて下さらないと共に、人間が仰ぎ拝む事によつて清浄なる靈光を受けるから、漸次罪穢は払拭されるのである。鰻の頭や低級なる的に向かつて如何に仰ぎ拝むとも、低級靈から受けるものは邪氣に過ぎないから、心は汚れ自然不善を行う人間になり易いのである。それ等を知らない世間一般の人は、神仏でさえあれば皆一様に有難いもの、願事は叶えて下さるものと思ふが、それも無理はない。尤も昔から神仏の高下正邪等見分け得るような教育は何人も受けていないからである。そうして狐、狸、天狗、龍神等にも階級があり、力の強弱もあり、正邪もあるが、頭目になると驚くべき力を発揮し大きな御利益を呉れる事もあるから信者も熱心な信仰を続けるが、多くは一時的御利益で、遂には御利益と禍いとが交互に来るといふような事になり、永遠の榮は得られないのである。以上説く処によつて、信仰の場合一時的御利益に眩惑する事なく、其識別に誤りなきよう苦言を呈するのである。

(信二)

私共は

多くの方々を救う
無限の力・方法を
与えて頂いている初代会長
多田 光行

よく世間には、自分は何も悪いことをしていないから、ということを書かれる方があります。なるほど、その人は悪いことをしていないかもしれないけれども、神様の御目から御覧になれば、ただ何も悪いことをしていないというのでは、私共が、神様から頂いている使命を本当に十分に全うできていないといっていることにはならないわけでごさいます。我々人間は色々な欠点がありますけれども、神様はそういう欠点はある程度許されるわけです。それよりも、神様の御目標であります地上天国を造らせていただくという御用に少しでも役立たせていただく方を、神様は重く見られるわけでごさいます。私共の場合は、世間一般の方よりもさらに大きい御用を頂いているわけでごさいます。しかも世間の方よりも、そういう神様のお役に立たせていただくことが、容易と申しますか、一番させていただきやすい立場に、本当は置かしていただいているわけでごさいます。

これもよく申し上げることでごさいますけれども、世間一般の方が、何か社会のために役立とうと思われても、これはなかなかおできになれないわけでごさいます。その方が社会的な地位も得られた方でしたら、これはおできになれるかも知れませんが、私共一人一人が社会のために役立とうと思いません、これはなかなかできないわけでごさいます。それが私共の場合は、それをさせていただくことができるわけでごさいます。

す。実際に苦しんでいる人をお救いさせていただくこともできます。現実には私共、自分が直接お救いするということは、何百人くらいでしたらお救いさせていただきますことはできるかもしれませんが、これはある程度限りがあります。ですから、私共がある方をお救いさせていただいて、その方が例えば御守様を頂かれるということであれば、さらに百人、二百人の方をお救いさせていただける可能性が頂けるわけでごさいます。ですから私共の場合には、私共が本当に真心を持たせていただければ、ある意味では無限に多くの方をお救いさせていただく力と申しますか、そういう方法を与えていただいているわけでごさいます。ですから、そこが、世間の方々と非常に違うところだと思っております。

「神様としては、神様の役に立つ者はどうしても助けます。それから邪魔したり役に立たない人間は、その人間が分るまでは手を引かれて時を待たれるのです。神様というのは、(中略)大変な御力で、助けようと思えば何でもないので。ただ助かる条件が揃わないのです。ですから人間の方でその条件に持つて行けばよいのです。」(教二・三・七八)

神様は愛です。それで大乗信仰の人は、人が良いとか悪いとか、そういう事は言わないのです。小乗信仰の人に比べて、あそこがいけない、ここがいけないという事を始終思ったり口に出したりするのですが、それがいけないのです。第一人が良いとか悪いという事は分るわけではないのです。」(教二・五八)

これは、先程申し上げましたように、私共、人間はそれぞれ欠点があります。よく、自分のような者がそういう神様の役には立たせていただけないとか、自分は非常に欠点だらけの人間だとか、まあこれは私共誰しも自分なりにそういうことを思わせていただいているわけでごさいます。なるほど、そういう欠点を少しずつでも減らさせていただくという努力はもちろん大切でごさいます。けれども、神様の御目から御覧になりますと、そういう欠点はあまりとれないわけでごさいます。そして、それよりも実際に、その人が本当に、少しでも神様のお役に立っているかどうかという方を主にとられるということでごさいます。

とかく人間は、他人の欠点は見えず、自分の欠点、つまりあの方はいいぶんあれだというふうに思ったりするわけでごさいます。けれども、神様の御目から御覧になると、案外そういうことではないのでごさいます。例えば私共が、非常に尤もらしくお祈りさせていただく姿を見ますと、これは人間的に見ると非常に良いように見えるわけでごさいます。もちろんお祈りということはお祈りでごさいますけれども、そのお祈りが、ただ自分だけ救われたいというお祈りであつては、神様の御目から御覧になつては、御心に叶っていないわけでごさいます。それよりも、何となく、ちよつとチャランポランみたいで、あの方はちよつと見るといい加減だと思えなくても、非常に心の奥底にそういう真心がおりになつて、少しでも多くの人を救ってあげたいというようなお気持ちで、強く持つておられる方であれば、これは神様はその方を非常に御守護して下さるわけでごさいます。

ですから、人間は、そういう欠点をお互いに持つていくわけでごさいますから、それ以上に、少しでも神様のお役に立たせていただくということが、非常に大切なわけでごさいます。その事を、明主様はここで仰つて下さっているわけでごさいます。これは、ある意味では大変な救いの御心だと思えます。それで最後にもう少し御教えを拝読させていただきます。

「信者だからつて愚けていて何もしなければ危いですよ。信者じゃなくてもいい行いをして正しい心の人は救われますよ。ただ信者は助かるべき方法を教えていただけるので、この御道で人を助ける事によって罪が減るんです。」(光七・一九)

「御用すると言う事は、本当は霊的に言うところ、皆人間は罪穢があるので、神様から借金していると言う事なのです。借金は溜めておく程利子は増えますから、早く返した方が得ですから、(中略)御用と言う事は大変結構なんです。罪穢がそれで消えますからね。」

神様は愛誰でもお救い下さる

誠の心・真心を大きな力に
頂いている使命全うを

2024年

秋 季 大 祭

数限りない御恵みに
心より感謝のお参り

芸術は美の現れで 地上天国に不可欠 芸術を通し魂の向上を

お話される会長先生



会長先生お話

御参り始めのご挨拶をされる会長先生



茶の湯 Reimei のメンバーによる呈茶接待



研究所の子ども広場でお参りする子ども達

(垂八・六二)
明主様はここで、信者だから、御守様を頂いているから、と言って、それでいい加減にやっていたのでは危ないというか、それではいけないと警告を与えて下さっているわけです。信者ではなくても世間一般で非常に一生懸命に努力しておられる方は、神様がちゃんと守って下さるわけでございます。ところが、私共の場合には、助かるべき方法を教えていただいているということでございます。これは先程申し上げましたように、私共は実際、直接に苦しんでいる人をお救いさせていただくことができます。この世の中から病気を無くさせていただくという方法も教えていただいております。もちろん今我々は沢山薬毒もありますし、その

2面からの続き

地道に最善を尽くしましょう

浄化はありますけれども、明主様がかつて、本当にこの明主様の御教えを全世界の人が分かっていた時には、この世の中から数十年にして病気はなくなるということをお仰ったことがございます。

私共は、この世の中から病気を無くさせていただくこともできますし、その他の色々な人間の苦しみを解決する方法を教えてくださいたいというわけでございます。しかも、それができる力も与えていただいているわけでございます。それから私共の場合、神様と結び持たせていただくことによりまして、何十、何百、何千、何万の方々をお救いさせていただくことが可

能になるわけでございます。私共の場合、皆そういう力を与えていただいているわけでございます。もちろん、それぞれ色々な御用の在り方はございます。沢山の人がお救いさせていただくという方もおられます。あるいは教会のご奉仕をさせていただかれる方ももちろんございまして、しょうし、あるいはお仕事を通して献金させていただいて御用させていただく方もございます。これから段々、世界中の多くの方が救われる場合に、例えばある一人の青年でどこへでも飛んで行って御救いの御用をさせていただこうという気持ちを持つていても、経済的になかなかすぐ行けない

とだと思っております。神様に愛される人になれるように一人一人が努力させていただきたいと思うわけでございます。明主様は、お側の人に「信仰というのは行いなんだから、行いが出来なければ何にもならない」(地三七・二〇)ということをしよつちゅう仰つたわけでございます。私共の場合、私共のできるところから、地道に最善を尽くして、一つ一つ私共の周りから天国になるような努力を続けさせていただきたいと思っております。そしてこの一年、お互い励まし合い、その体験を12月の御生誕祭には、それぞれが本当に神様に愛していただけて、本当に神様の御心に叶うように努力させていただいたということをお互いに喜ばしていただけるようにならせていただきたいと思います。

(一九六八年一月一日)

秋季大祭は9月20日の午前7時30分と10時30分の2回執り行われました。ご参拝の後、会長先生は「明主様は春分と秋分の2回、昼と夜の時間が等しく調和のとれた時、明主様をお許し下さいました。日頃私達が気の付かないうちに神様

から頂いておられます数限りない御恵みに対して、心より感謝のお参りをさせていただいてあります」とお話しされ、御教え「宗教と芸術」(芸術編297頁)を拝読して下さりました。その後次のようにお話し下さいました。

「今までは夜の時代であったために「粗衣粗食、禁慾的生活をしながら教法を弘通した聖者名僧も多く輩出したの

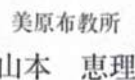
で、芸術と宗教は甚だ縁遠いもののように思われる事になった」ということですが、これは間違っていました。明主様は別の御教えで宗教の使命について次のようにお説き下さっています。「宗教は、あらゆる分野の最高峰に、超然と立ち、普く人類を救うべき最大権威と力を有つて居るべきものである。唯然し、

法でもあり、この意味からも宗教に芸術は必須であるわけでございます。また、芸術の極致とは、作者の人格を通して真善美を表すことであるとお説き頂いております。私達にお与え頂いている地上天国建設の使命を顧みなく果たさせていたげます。芸術を通して魂の向上に努めさせていただきたいと思っております。お陰で、奉告では、家田國太郎が百身に頂かれた「浄化」についてご報告されました(7、8面参照)。祭典後、資料研修館では所蔵琳瑯名品展が開催され、多くの方が琳瑯の作品を観覧されていまして、また「断の茶室」では茶の湯 Reimei のメンバーによる呈茶接待があり、そこでは美味しいお茶とお菓子を頂かれ、五感を通して芸術を楽しませていただきました。

秋の大祭にご参拝のお祈りを賜り、宗教と芸術の真の在り方について学ばせていただきました。

擦り傷や打撲 全治1週間

夜中ずつと御浄霊お取次ぎ



山本 惠理

誤嚥
手術
静か

誠にありがとうございます。

た御守護のご奉告をさせていたいただきます。

の所に仕立てられました。その間に一度会いに行き、部屋の様子を除をさせてもらっていました。

以下5面へ続く

一歩間違えば死亡事故
体が柔らかく助かる

大難を小難にして頂く

今回の奇蹟を通し
神様の御実在を
より身近に感じる

帰幽した
義理の父に
御守護賜る

誤嚥性肺炎で2回入院

手術をすることなく
静かに息を引き取る

誠にありがとうございました。

次に今年の一月に帰國いたしました義理の父に囑りました御守護のご奉告をさせていたたきます。

昨年の事ですが84才になる
 義父は一人暮らしをしてお
 り、私の家からは車で45分程
 の所に住んでおりました。目
 に一度会いに行き、部屋の掃
 除をさせてもらっていまし
 ました。

義父は若い頃はヘビースモーカーだったためか、慢性閉塞性肺疾患となり、2008年にはパーキンソン病を発症していました。かかりつけの

以下5面へ続く

資料研修館開館20周年記念特別講演

講師 大阪芸術大学教授の河田昌之先生

講演される河田昌之先生



黎明教会資料研修館は、御教養にお記し頂いている最高の芸術を誰かが気軽に鑑賞させていたける場として、2004年9月23日に開館の許可を頂き、本年2024年に開館20周年を迎えさせていただきます。開館20周年を記念し、特別企画の第一弾として春季(3月4日・4月21日)にリクエスト展を、第二弾として秋季(9月1日・10月20日)には所蔵琳派名品展が開催されました。そして、第三弾として、9月23日には特別講演が開催されました。講師には大阪芸術大学教授の河田昌之先生をお招きし、「俵屋宗達の物語絵とレイメイアートギャラリーコレクションについて」と題して講演頂きました。

河田昌之先生は日本の中世・近世絵画史が専門で、美術館学芸員として30年以上の経験をお持ちの先生です。

「俵屋宗達の物語絵」についてお話

作者の意図や鑑賞のポイント

の 時 鑑 品 術 美
方 時 賞 鑑 品 術 美
解 み し 楽 や 点 や り
を く す や り 点 や り
を 解 く す や り 点 や り
を 解 く す や り 点 や り

2004年より和泉市久保郷記念美術館館長、2013年に大阪芸術大学芸術学部教授となられてからも同館の非常勤館長でいらっしやいます。

9月23日当日、未曽有の方を含み、140名を超える聴講者が黎明ホールに集まり、午後7時より講演が始まりました。

午後7時より講演が始まりました。講演では琳派の祖である俵屋宗達や本阿弥光悦が活躍した時代の歴史的・文化的背景の説明に始まり、主に宗達の物語絵についてお話いただきました。物語絵とは、俵氏物語や伊勢物語といった古典文学を題材とした絵画のこと

で、京都で町絵師として活躍した宗達の描く物語絵は、観る者をおおらかな気持ちに誘い、新鮮なイメージを与えるもので、同時期に幕府御用絵師として活躍した狩野派・土佐派の作品とは一線を画したと教えていただきました。講演の後半には、資料研修館所蔵の宗達筆の物語絵「源氏物語図(重)」・「伊勢物語図色紙(浅間の嶽)」について、他の絵師の作品との比較も交えながら、作者の意図や鑑賞のポイントを教えてくださいました。美術品を鑑賞するにあたっての様々な視点・楽しみ方をはじめ、琳派作品についての非常に興味深い内容を初心者にも分かりやすいお話を下さいました。講演の最後には質疑応答の時間があり、作品の解釈等についての聴講者からの質問に対してもしっかり丁寧に答え下さいました。

講演終了後には、資料研修館1階にて希望者対象のレセプションがありました。40名を超える参加者の方々は、一部に無類肥無類栽培の作物を使った軽食を頂きながら、講演の感想を語り合い、そして河田先生に積極的に質問をされる姿が見受けられました。

御守護により資料研修館開館20周年の節目の年を迎えさせていたこと、講演会にて琳派作品の素晴らしさを学びさせていただいた貴重な機会を賜りました。これからも芸術を通して我々の向上に努めさせていただきます。



講演を聴く参加者 ▶

スクリーンに映された資料研修館所蔵品



俵光琳 猿蓑図屏風(部分)



乾山 色絵萬国香合



乾山 色絵花籠図茶碗



仁清 銀絵染付芥子園図徳利



仁清 色絵七宝園掛羅紗香合



写真を映しながら講演される河田先生



質問する聴講者

御生誕祭前に 風邪のご浄化

体温40度超え 激しい嘔吐

座っているのがやつとの状態

お蔭ご奉告



家田 善太

明主様日々御守護賜わり、誠にありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

明主様、お蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

2023年御生誕祭前の12月13日の夜から風邪のご浄化を頂きました。私は風邪のご浄化の事は、白粉や白濁など、お蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

2023年御生誕祭前の12月13日の夜から風邪のご浄化を頂きました。私は風邪のご浄化の事は、白粉や白濁など、お蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

明主様に御守護お願い 御生誕祭ご参拝の間だけ 御守り頂き感謝で一杯

明主様ありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

明主様ありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

明主様ありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

明主様ありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

明主様ありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

社会人になり 自然農法奉仕の 御用を頂く

明主様ありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

会長先生より ご指導頂く

明主様ありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

明主様ありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

明主様ありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

明主様ありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

焦らず神様にお任せする気持ちになる

明主様ありがとうございます。この度は御生誕祭にてお蔭ご奉告の御礼を頂きありがとうございます。

体調に波はあったものの
何とか出勤できる
体調も良くなる

以下8面へ続く

